



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：ガリバーフ・テヘラン市長インタビュー (1月9日付 The Financial Times 他)

1. ガリバーフ・テヘラン市長は、2009年のイラン大統領選に立候補するかどうかについては言及しなかったが、同市長職はアフマディネジャード大統領が大統領になる出発点となったポストであり、ガリバーフ市長の動向はイラン政界において注目の的になっている。
2. 近代化主義者を標榜するガリバーフ市長は、前回の大統領選で衆目を集め、今次大統領選では、アフマディネジャード大統領の数少ない強力な挑戦者の一人と見られている。しかし、現在46歳で、元イラン警察庁長官の同市長は、しばしば同大統領同様の原理主義者とみなされており、同市長の政治的見解は今のところ十分に吟味されていない。
3. 多くのアナリストは、ガリバーフ市長を、改革派でも強硬保守派でもないという現在のイランのトレンドの象徴であるとみなしている。西側外交官の一部は、同市長は主要政治集団に幻滅した投票者に最もアピールしうる人物であると見ている。
4. 2005年の市長就任後、西側との初めてのインタビューにおいて同市長は、権威主義的であるという批評に対し、一方的な見解に過ぎないと否定し、反対勢力の方が凶悪であると非難した。
5. 同市長は、自らの革新的成果の一つとして、テヘラン市を380世帯毎に行政上分割して評議会を設立し、市民を同市開発に参加させたことを挙げた。また市長就任以降、45kmの道路建設を監督し、交通システムを効率化した。またミラッド・タワー建設もスピードアップさせている。民間セクターの活用や85億ドル(8兆リアル)もの外国投資を呼び寄せる等の成果により、同市の予算を3倍増340億ドル(32兆リアル)に拡大したと述べた。
6. ただし問題が山積していることも認めている。テヘラン市は、無秩序、首尾一貫しない都市計画、汚染問題、人口流入問題(800万人のキャパシティーしかない同市には日中1050万人もの人口が流入する)があることを挙げて、同市は更なる外国投資を必要としていると述べ、イランの核問題を巡る国際的な情勢が投資流入を困難にしていると語った。
7. ガリバーフ市長は、現在の段階ではアフマディネジャード大統領のポピュリスト政策によって影を薄められている。同市長は、ポピュリズムは大衆を馬鹿にしたもので、長期的視野に立てば必ずや自らの政策を認めてもらえるだろうと結んでいる。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799